マンリョウ・・・

マンリョウは東アジアの暖温帯から亜熱帯に広く分布する小低木で，高さ７０ｃｍ程度にまで生長します。日本では，しばしば林の中にひっそりと生育する姿を見かけます。当団地では，７号棟集会室南の植栽の中に育っています。常緑の小低木で，葉に浪状の鋸歯があることが大きな特徴です。二年枝（前年に伸びた枝）の先に，６～７月頃，花弁が５裂した白い花をつけます。昼に咲いて夜には閉じる一日花です。そして，秋に液状の核果（梅の実と同じ成り立ち）が赤く熟します。

和名は「万両」の意味です。センリョウと比較して，より果実がたくさん付き，美しいことから名付けられたと言われています。同時に，センリョウは葉の上の方に実をつけるので鳥に食べられやすく，マンリョウは葉の下に実をつけるので食べられにくい上に，味も良くないために，実がしっかり残り，重く垂れ下がるというのも理由の１つでしょう。

この赤い実のなる樹木は，俗名も含めて，マンリョウ，センリョウ，ヒャクリョウ（カラタチバナ），ジュウリョウ（ヤブコウジ），イチリョウ（アリドオシ）と揃い踏みとなっているのは愉快です。ヒャクリョウやジュウリョウがマンリョウなどに比べ背が低く，実の数も少ないことは言うに及びません。

庭園で，モッコクの根元にセンリョウとあわせて植栽し，「千両，万両持ち込む」と読ませて縁起を担ぐことがあります。また，正月の生け花としても，センリョウ，マンリョウ，アリドオシ（蟻通し：アリさえ突き刺すほどの鋭い針が特徴）を一緒にして飾られます。つまり，「千両，万両，あり通し（いつもある）」というわけです。それに，花のない正月にこれらの植物を飾りに使う習慣は，クリスマスのヒイラギを飾る習慣とよく似ていて，とても興味深いものがあります。

センリョウ

ヒャクリョウ

ジュウリョウ

イチリョウ

ところで，最近，アメリカのフロリダで，このマンリョウが有害帰化植物に指定されたとの話を聞きました。鳥があまり食べないので，人工林にびっしり増殖し，テキサスやルイジアナにもどんどん広がりつつあるそうです。日本では控え目なマンリョウも，かの地に解き放たれてわがままになったということでしょうか。